

# 甲賀市の文化財⑮

## 土山の街道名物

浮世絵に描かれている宿場の風景には、その土地の名物を題材にしたものが多くみられます。

この名物、実は宿場ではなく立場で生まれたものがほとんどです。立場とは、宿場と宿場の間に設けられた休憩をとる場所のことで、お茶や菓子を提供する茶屋などがありました。宿場が人馬の継立や宿泊を中心とした場とすれば、立場は行き交う旅人が集う観光案内所のようなものでした。各地域で売られた食べ物や土産物が人々の間で有名になると、その名物を食べたり買ったりすることが旅の楽しみとなりました。

蟹が坂館は、大蟹退治の伝承にちなんで厄除け館として知られ、東海道の風物を著した『東海道名所図会』の蟹が坂の部分に「名物として丸き館を売家多し」と記されています。また、「山中館」「地黄煎」の名称もあり、山中村から猪鼻立場、蟹が坂村にかけての街道沿いで売られていたようです。

蟹が坂館は、麦芽水飴を原料とし、ゴザの上にはり付けた水飴をコテで押し付けて直径3cm程の丸型にし、固まったものを竹皮で包装します。独特の模様は蟹の甲羅を模したものとされています。

現在でも蟹が坂館は販売されており、伝統の味を今に伝えています。

土山宿の名物であった木櫛は、宿東の生里野で販売されていました。『東海道名所図会』には「名物指櫛」とあり、大田南畝(蜀山人)の『改元紀行』には、「土山の宿に入りても櫛うる家多し。土山亀井くし、又御櫛所お六櫛などかきたる札を出せり」との記述がみられます。

この櫛は、昔、木曾の旅人が伊勢参宮を終えて帰国する途中に土山の地で病にかかり、村人の手厚い看護によって回復したことに感謝して、木曾の木櫛を村人に伝えられたのが始まりとされています。櫛は、お六櫛などの名称で販売され、軽くて持ち運びが便利なため土産



▲土山の街道名物である蟹が坂館

物に喜ばれました。しかし、明治時代になり宿駅が廃止されると、櫛を売る店も次第に姿を消していききました。

現代でも、旅先の名物を食べたり買ったりすることは旅の楽しみですが、江戸時代、旅人によって広められた街道名物は、当時の旅のようすや庶民文化を知ることができる貴重な情報源となっています。甲賀の名物、皆さんはいろいろ存知ですか。

「問い合わせ」  
文化財保護課

☎ 86-8026  
FAX 86-8380

## 掃き清められた東海道

江戸時代に日本を訪れた外国人は美しい風景とともに、主要な街道が美しく整備されていることに感心しています。ヨーロッパにくらべ日本では牛馬の糞はすぐ肥料になったからという説もありますが、結局掃除する人がいたということになります。

では誰が掃除をしたのでしょうか。幕府や



◀東海道掃除場間数帳

# 市史の小径

第13回

街道を歩く  
その3

藩の役人でしょうか。そうではありません。糞の始末をはじめ松並木の維持、小さな補修工事は、宿場町や街道沿いの村々に労役として課

せられていたのです。

なかでも公用の通行が多かった東海道は、道中奉行のもと維持管理に意が払われ、御三家、参勤交代の大名、諸門跡、勅使、名代、お茶壺道中などの通行に際しては、事前に掃除をしなければならず、当然外国人使節の通る前も掃除がなされたはずです。

掃除場所は一定の持ち場が割り当てられ、これを「掃除丁場」と呼びました。写真は今も一部に松並木が残る北脇

村内の掃除丁場を記したもので、853間半2尺5寸(約1.6km)を同村ほか3ヶ村が受け持っています。

天保14年に幕府が作成した『東海道宿村大概帳』には、東海道全線の掃除丁場と受け持村が記されていて、その嚴重さに驚かされるとともに、維持管理にかけた幕府の並々ならぬ熱意と、人々の苦勞、そして東海道の重要性に改めて気づかされます。

【問い合わせ】総務課市史編纂係

☎ 86-8075 FAX 86-8380